

第12回全国自給飼料生産コンクール受賞名および氏名

【農林水産大臣賞】

(放牧部門、畜産経営体)

※各数値はR6年度のもの

出品者氏名	県名	出品財(放牧)		家畜飼養頭数(年平均頭数)					飼料作物作付面積(ha)				労働力(人)	平均分娩間隔	平均産次
		草種	実面積(ha)	品種名	成牛	育成牛	子牛	計	放牧地	兼用地	野草地	計			
近津 義尊 佐和子	北海道	チモシー、オーチャード、 メドウフェスク、 ペレニアルライグラス、 クローバー	24.8	ホルスタイン	43	8	8	59	24.8	23.2	2.6	50.6	家族経営	ヵ月	(産)
		23.2	男 1										14	3.1	
		野草地	2.6	経産牛1頭当産乳量	乳脂率	乳飼比	粗飼料自給率(TDN自給率)	(土地利用)	女 1	TDN自給率	年間乳量(t)				
		計	50.6	7,425 kg	4.0 %	21.6%	100%	100%	計 2	79.5%	297				
経営の概要	<p>近津氏は神戸市出身で、2007年に新規就農して以来、北海道農業公社の補助事業を活用し、5年間のリース期間を経て農場を取得した。就農当初から放牧飼養に力を入れ、技術の研鑽を重ねながら経営を発展させてきた。</p> <p>草地面積は就農時から一貫して50.6haを維持しており、その内訳は放牧専用24.8ha、兼用地23.2ha、野草地2.6haで、採草専用は設けていない。乳牛は成牛43頭、育成子牛16頭の計59頭前後で推移しており、繋ぎ飼養の牛舎に加えて、自らビニールハウス式の哺育舎も建設している。</p> <p>TDN換算で粗飼料自給率100%、全体の飼料自給率75%を達成している。令和6年の乳飼比は21.6%と低く、過去10年間の所得率も40%前後で安定しており、持続性の高い経営を確立している。放牧は5月初旬から11月末までの約200日間にわたり、3~6haの中牧区利用による昼夜放牧を実施している。</p> <p>2018年からは育成牛の早期放牧や穀物ゼロの飼養の使用方式を模索し、2019年には半季節分娩(春7~8割、秋2~3割)を導入した。</p> <p>放牧草を中心とした牧草の最大活用に努め、放牧畜産実践牧場の認証を取得。小規模ながらも牧場内資源を有効に活かし、草地生態系の維持に配慮した自立的で安定した経営を実現している。さらに、無化学肥料による草地管理を行い、全草地で有機飼料生産認証も取得している。</p> <p>加えて、実習生の積極的な受け入れや、道東の放牧酪農を中心とした交流会組織への所属、農協の酪農協議会の役員として地域農業の発展と推進にも貢献しており、地域とともに歩む酪農経営を展開している。</p>														

第12回全国自給飼料生産コンクール受賞名および氏名

〔農林水産省畜産局長賞〕
(飼料生産部門、飼料生産組織)

出品者氏名	県名	出品財(飼料作物)		構成農家戸数(戸)	飼料作物の単収(kg/10a・原物)			労働力(人)		
		栽培品種	実面積(ha)		イネWCS(たちあやか)	イネWCS(たちすずか)		男	女	雇用
天王ナチュラルファーム	大阪府	イネWCS(たちあやか)	4.3	4戸	2,100	2,100		2	0	4
		イネWCS(たちすずか)	1.7	受託農家戸数				飼料生産全般		飼料生産作業補助
		計	6.0	47戸						
経営の概要	<p>天王ナチュラルファームは、条件不利な圃場を多く抱える中山間の天王地区で深刻化していた農業者の高齢化や担い手不足、そしてそれに伴う遊休農地の増加といった課題に対応するため、地元農家の有志によって平成29年に設立された。地域の水田の耕作作業を受託する組織としてスタートし、地域農業の維持と再生に大きく貢献している。</p> <p>令和4年からはWCS用イネの生産に取り組み始め、大阪府内で初めてドローンによる播種を実施したほか、専用収穫機やラッピングマシンを導入して効率的な収穫・調製体制を整えた。取組面積は令和5年度に3ha、6年度には6haへと順調に拡大している。</p> <p>構成員の酪農家は大阪府の協力を得て乳牛への給与試験を行い、安心してイネWCSの利用ができることを実証した。この成果は講習会や収穫イベントを通じて他の畜産農家にも提供することで、耕畜連携の輪を広げている。また、令和6年には京都府や兵庫県でのWCS用イネ収穫作業の請負を開始し、さらに飼料会社の協力により収穫したイネWCSを府内南部の酪農家へ流通させるなど、耕畜連携の広域化に取り組んでいる。使用している品種は、晩生の「たちすずか」と中生の「たちあやか」というWCS用イネ専用品種である。</p> <p>地域内の47戸の耕種農家全員と受託契約を結び、天王ナチュラルファームが栽培を担うことで、ドローンを活用した直播や追肥、農薬散布など作業時間の削減が図られている。さらに、令和2・3年にはスマート農業加速化実証プロジェクトに採択され、携帯電話エリア外地域の通信インフラ整備、水回り支援システム、農業観光向け空撮映像のAI自動編集、ラジコン草刈り機による除草、獣害監視システムなど、多様な技術を導入している。</p> <p>また、定期的に講習会などで、取り組みを積極的に発信することで新たな担い手の確保につなげ、府内の畜産農家の活性化にも寄与している。堆肥については、構成員酪農家のものに加えて近隣の養鶏農家の鶏ふんも活用し、堆肥の滞留解消にも貢献している。化学肥料の削減に取り組んで生産されたイネWCSは、大阪エコ畜産物の認証を取得している。</p>									

第12回全国自給飼料生産コンクール受賞名および氏名

〔農林水産省畜産局長賞〕
(飼料生産部門 畜産経営体)

出品者氏名	県名	出品財(飼料作物)		家畜飼養頭数(年平均頭数)					飼料作物の単収(kg/10a・現物)				労働力(人)	平均分娩間隔	平均産次	
		草種	作付面積(ha)	品種名	成牛	育成牛	子牛	計	採草地							
合同会社 ラックファーム	徳島	デントコーン	14.0	ホルスタイン	72	28	5	105	デントコーン	イタリアン	イネWCS	テフグラス	家族経営		カ月	(産)
		イタリアンライグラス	17.0						5,500	5,000	2,700	300	男	女		
		イネWCS	2.6	経産牛1頭当産乳量		乳脂率		乳飼比	粗飼料自給率		(土地利用)	2	1	TDN自給率	年間乳量(t)	
		テフグラス	3.0	9,854kg		3.75%		46.0%	92% (+外部販売あり)		(146%)	雇用		60% (+外部販売あり)	616	
		稲ワラ	8.0									1				
		計(延べ)	44.6									計				4
経営の概要		<p>家族で150筆の圃場を管理し、粗飼料自給率92%を実現している酪農経営である。平成21年には、効率的で安定した農業経営の確立と、健康で明るい家庭を実現することを目指して家族経営協定を締結し、平成30年には法人化して現在の経営体制を整えた。</p> <p>経営面積30haの中で、イタリアンライグラスとデントコーンの二毛作に加え、イネWCSやテフグラスの栽培、稲わらの利用を通じて、延べ44.6ha分に相当する飼料を確保している。乳牛は成牛72頭、育成子牛33頭の計105頭前後で推移しており、繋ぎ飼養の牛舎は牛の環境を最優先に考え、日当たりや風通しが良く細部まで工夫した飼養環境を整えている。</p> <p>TDN換算で粗飼料自給率92%、全体の飼料自給率60%で、令和6年の乳飼比は46%となっている。良質な飼料生産にこだわり、家畜との良好な関係を築くためストックマンシップを実践し、令和2年には農場HACCP認証も取得した。自給飼料生産では機械の改良や作業効率化に取り組み、サイレージと青草の併用給与によって圃場の利用効率の最大化を図っている。生産した飼料のうち余剰分は近隣農家へ販売している。</p> <p>また、自給飼料生産は、耕作放棄地に補助金が投下されることで地域内の資金循環を生み出す重要な取り組みと位置づけており、地域コミュニティ維持のため認定農業者として地域計画の策定にも関わり、耕作連携による耕作放棄地の活用に結びつけている。県畜産研究所や農研機構、日本草地畜産種子協会と連携し、トウモロコシの不耕起播種や新品種の実証にも取り組むなど、気象条件に適した品種・栽培技術の検討も行っている。</p> <p>さらに、地元JAの副組合長や四国生乳販連の理事を歴任しているほか、農業大学校の実習生や中高生のインターンシップも積極的に受け入れている。</p>														

第12回全国自給飼料生産コンクール受賞名および氏名

【一般社団法人日本草地畜産種子協会会長賞】

(飼料生産部門 飼料生産組織)

出品者氏名	県名	出品財(飼料作物)		構成農家戸数(戸)	飼料作物の単収(kg/10a・原物)	労働力(人)		
		栽培品種	実面積(ha)		イネWCS(えみまる)	男	女	内雇用
イネWCS生産組織 田藁屋	北海道	イネWCS(えみまる)	189.7	31戸	530	34	2	
		計	189.7			飼料生産全般		
経営の概要	<p>田藁屋は、令和3年に国から示された水田活用直接支払交付金の見直しを受けて、輪作体系に水稻を含む空知型輪作の特性を踏まえ、耕種農家として大きな設備投資を必要とせず、継続的に取り組める作物として新たに稲WCSの生産を開始するために設立された組織であり、現在は189.7haの規模でWCS用イネを栽培している。令和5年から本格的な生産を開始し、空知農業改良普及センターの協力を得ながら従来の空知型輪作体系に組み込んだ乾田直播による生産技術を確立した。令和6年時点で生産に携わる会員は31戸にのぼる。近郊に畜産農家がほとんど存在しないため、収穫したイネWCSは約130km離れた白老町の大規模肉用牛経営・敷島ファームへ広域流通している。</p> <p>敷島ファームで発生する堆肥は、田藁屋の設立と前後して整備されたペレット化設備で加工され、資源循環を実現している。また、飼料運搬の復路を空荷にしないことで環境負荷の低減にもつなげている。</p> <p>基盤整備事業による圃場の大区画化や、高精度測位補正システムを活用したロボットトラクターの導入など、スマート農業を積極的に推進し、低コスト化と効率化を図っている。WCS用イネの品種には「えみまる」を採用しており、低温苗立性やいもち病抵抗性、玄米品質、収量性に優れ、特に直播栽培に適した品種とされ、栽培にあたっては、栽培基準や品質基準を明確に定め、品質の維持に努めている。さらに、栽培協定や生産・販売、堆肥に関する取り決めを盛り込んだ運営規定を定め、田藁屋専用の栽培暦を作成することで収量確保と高品質化を目指している。</p> <p>運営規定は利用者との協議を重ねて作成されており、生産量や品質を利用者側の視点から確認できる体制を整えている。また、年1回の総会に加え、現地研修会や役員会(各協議事項の確認等)を定期的に行い、組織としての連携強化と技術向上に取り組んでいる。</p> <p>生産されたイネWCSは敷島ファームで経産牛の肥育に利用され、風味がありながらあっさりとした肉質が特徴の「ピリカルージュ」ブランドとして販売され、高い評価を得ている。</p>							

第12回全国自給飼料生産コンクール受賞名および氏名

【一般社団法人日本草地畜産種子協会会長賞】

飼料生産部門 飼料生産組織

出品者氏名	県名	出品財(飼料作物)		受託農家戸数(戸)		飼料作物の単収(kg/10a・原物)			労働力(人)		
		栽培品種	作付面積(ha)			デントコーン	イネWCS	オオムギ	男	女	雇用
海上自給飼料生産組合	千葉県	デントコーン	125	畜産農家	15	4,000	3,300	3,000	5	0	11
		イネWCS	48	耕種農家	1						
		大麦	21	養豚農家	6				圃場管理 計画作成 運搬		収穫 作業
		計(延べ)	194	計	22戸						
経営の概要	<p>大家畜経営のコスト低減と地域循環型の耕畜連携を推進することを目的に、平成21年に設立された飼料生産組織である。デントコーンの二期作やイネWCSとオオムギの二毛作を組み合わせ、延べ194haの圃場を管理している。令和7年度時点では、耕種2戸、酪農2戸、肉牛2戸の計6戸が構成員となり、ここで生産された飼料は乳用牛約320頭、肉用牛約2,140頭の自給飼料として活用されている。</p> <p>また、養豚農家が家畜疾病発生時の埋却予定地として保有し、有効活用が進んでいなかった土地でトモロコシの栽培・収穫を請け負い、同農家の堆肥を利用することで、畜種を超えた連携と地域循環を図っている。さらに、地域内の耕作放棄地を活用した自給飼料生産や、デントコーンの二期作、水田裏作での飼料用オオムギ作付など、土地の有効活用にも積極的に取り組み、地域の生産モデル体系の構築に貢献している。</p> <p>特に、水田裏作での飼料用オオムギ作付は優良事例として評価され、県内各地から視察の要望を受け入れるまでに至っている。組合員の畜産経営から排出される家畜ふん堆肥はすべて圃場に還元しており、さらに組合員以外の畜産経営からの堆肥を施用した圃場も畜種を問わず請け負うなど、地域全体の資源循環に寄与する取り組みを進めている。</p>										

第12回全国自給飼料生産コンクール受賞名および氏名

【一般社団法人日本草地畜産種子協会会長賞】

飼料生産部門 飼料生産組織

出品者氏名	県名	出品財(飼料作物)		受託農家戸数(戸)		飼料作物の単収(kg/10a・原物)		労働力(人)		
		栽培品種	実面積(ha)			たちすずか	つきあやか	男	女	雇用
株式会社 ウエストカントリー	岡山県	イネWCS(たちすずか)	37.0	畜産農家	19	3,087	2,677	1	1	2
		イネWCS(つきあやか)	5.1	畜産農家以外	0					
				農家以外	0					
		計	42.1	計	19戸			機器整備 労務・調 整管理	事務	飼料生産 全般
経営の概要	<p>ウエストカントリーは、地域の飼料生産体制を維持することを目的に、新見市で建設業を営む西村工業によって平成20年に設立された飼料生産組織である。遊休化していた建設機械とオペレーターを農業へ転用し、効率的な運用を進めることで、令和6年度には自社生産分5.2haを含む42.1haで飼料生産を行っている。</p> <p>新見市の中山間地域に位置する標高200～600mの比較的まとまりのある圃場を選定し、きめ細やかな圃場管理と計画的な機械整備を徹底することで、生産効率と安定性の確保に努めている。規模拡大に伴い、令和6年度の売上高は17,747千円と前年比201%の大幅な増収となったが、農協の協力による配送の効率化により、同じ人員体制で対応できる仕組みを整え、コスト低減も実現している。</p> <p>建設業を母体とする強みを活かし、地形や土壌状態に応じた施工技術を活用することで耕作放棄水田の整地・改良に取り組むことで、地域資源の再活用と生産面積の拡大を両立している。イネWCS専用の晩生品種「たちすずか」と中生品種「つきあやか」を採用し、計画的な転作体系によって地力維持と収量向上を図った結果、令和6年度には3,087kgと過去最高の収量を達成した。収穫時には微細断型の収穫機や8層ラッピングによる高密度発酵を導入し、品質向上にも努めている。</p> <p>さらに、建設業由来の計画的な機械整備により、減価償却費を県平均の半分以下に抑え高い稼働率を維持している点も特徴である。新見市農業技術者連絡協議会と連携し、耕種農家への圃場管理や水管理の指導を行うことで、地域全体の品質向上にも貢献している。</p> <p>また、地元の哲多町堆肥センターから堆肥を入手し水田へ散布することで、地域内での資源循環に努めている。生産されたイネWCSの一部は、3農場で計1,000頭超の黒毛和種を一貫飼養する哲多和牛牧場へ直接販売され、岡山県を代表する和牛ブランド「千屋牛」の生産を支える。複合経営であり、飼料生産を中心としたコントラクター部門に加え、不動産賃貸部門や果物加工部門も展開している。</p>									